

# 未来の科学教育を、プログラミングの革新的教材で支える。

学校の美術・図工教材の製造販売会社として1960年に大阪で創業したアーテック。事業範囲を次第に広げ、2008年頃からロボットプログラミング教材の分野へ進出。科学教育の重要性が高まる中、国内だけでなく海外からも注目を浴びている。現在は全国にロボットプログラミング教室も展開し、子供たちの学習を支えている。

## 株式会社アーテック

代表取締役社長

藤原 悦

Etsu Fujiwara



現場の要望をすくいあげ  
プログラミング教材を提供

アーテックは美術、図工、理科、体育、技術と幅広い科目の教材を扱っている。「日本では、教材の提供会社は一般的に教科ごとに分かれていますが、しかし当社にはチャレンジを恐れない社風があり、特定の教科にとらわれずに事業を広げてきました」と代表取締役社長の藤原悦さんは語る。

同社が他社にはない教材を生み出すためにこだわってきたのが企画と調達だ。独創的なアイデアを実現するために、必要な材料や要素技術を低価格で調達、小ロットのニーズにも応える体制を整えてきた。

このようなチャレンジ精神が形になったのがロボットプログラミング教材への進出だ。二〇一〇年から中学校の技術科の学習内容に「計測と制御」が加わったことも契機になった。「それまでの技術科はノギリとハンダ付けの世界でしたから、先生たちはロボットを用いた教育をどう行えばいいか頭を抱えていました。教材の価格もネックで、何とか二〇〇〇円台に収める必要がありました」。

こうした課題を解決すべく開発したロボットプログラミング教材は大ヒット。さらに、教材がテレビで取り上げられると、全国のロボット研究者から大きな反響があった。その背景には日本のプログラミング教育体制が十分でないことがあったという。「状況を変えるには日本メーカーの力が不可欠だと研究者の方々に言われ、それに応えようという思いを強くしました」と藤原さんは力を込める。

グ教室も展開し、ハードとソフトの両面で子供たちの科学学習を支えている。

日本メーカーの証明、co.jpが教材としての安心感に

現在のウェブサイトは三年前に全面的にリニューアルした。コーポレートサイトとサービスサイトが混在していたため、整理し、より目的のページに到達しやすいように工夫した。

最近では、先生が教材の使用方法をウェブサイトで確認する機会が増えている。「当社がかつて教材に使用方法のビデオを付け、業績を伸ばしたことがありますが、ですから動画コンテンツが重要だという考え方は現在のウェブサイトに活きています」と藤原さん。

ウェブサイトで動画コンテンツに加え、プログラミング教材のソフトウェアのダウンロード、デジタル教材やカタログの公開など、多角的な情報発信を行っている。

動画コンテンツは、新卒採用の場でも効果を発揮しているという。「教材の動画を通してアーテックへの理解を深め、志望してくれる学生もいて、優秀な人材獲得に繋がっています」。

ドメインの「co.jp」を登録したのは一九九九年のこと。世界六五カ国以上でビジネスを展開しているアーテックでは、海外企業の反応から「co.jp」のメリットを感じているという。「特に海外企業は、『co.jp』を見て、日本のメーカーだという安心感のもと問い合わせをされることが多いです。教材の信頼性を訴求する上で非常に良かったと思います。ウェブサイトの問い合わせが、大きな商談に結び付いた事例もあるという」。

「これからも高品質な教材の開発を続け、日本だけでなく世界の科学教育に貢献したいですね」と藤原さんは語った。

## 成長企業を支える信頼のドメイン

ウェブサイトやメールのアドレスに含まれる「ドメイン」。「.jp」、「.com」、「.net」などさまざまなものがあるが、日本の企業に最適と言われるのが「co.jp」だ。誰でも登録できるドメインと違い、日本国内に登録のある企業が1組織につき1つに限って登録可能というルールのもと、登録・管理されている「co.jp」は、上場企業の97%に選ばれる安心と信頼のドメインである。

なお、6カ月以内に登記予定であれば「co.jp」は登録できる（仮登録）ので、起業を考えている人にもおすすめです。



## <https://www.artec-kk.co.jp>

企業ウェブサイト紹介

アクセス数は一日約1000ユーザー、年間約100万～120万PVだ。人気コンテンツは学校教材の商品カタログである。ウェブサイトからの問い合わせは、数年前の3倍くらいにまで増えたという。その多くは学校以外の企業や団体だ。そうした問い合わせは新たな企画にも活用されている。

